

学校とのやりとりに関する困りごと アンケート報告事例集（速報版）



子どもが不登校や登校しぶりになったとき、多くの保護者は大きな衝撃を受け混乱します。そしてその状態のまま、我が子へのケアと、学校とのやりとりが始まります。

多様な学びプロジェクトでは、学校とのやりとりで疲弊する保護者を減らすことが、結果的に子どもの心身を守ることに繋がると考え、学校とのやりとりをスムーズにするための依頼文(別紙『子どもに関するやりとりなどについてのお願い』)を作成しました。

作成に当たっては、「学校とのやりとりに関する困りごと」についてのアンケートを実施。不登校・登校しぶりの子どもの保護者 630 名以上から様々な困りごと、そしてそれに対する解決策を寄せていただきました。

本書ではアンケート集計結果と、自由記述にお寄せいただいたエピソードをご紹介します（表記は原文をそのまま、長いものは一部抜粋、個人情報伏せて掲載）。

不登校児童生徒の休養の必要性や、当該児童生徒と保護者が必要とする情報提供や支援の国や自治体の責務については、2017年2月に施行した教育機会確保法(※)第13条において明記されています。

しかし、家庭と学校間のコミュニケーションの齟齬や、子どもの状況に対する認識のずれがあった場合、保護者にかかる心身への負担は想像以上に大きく、アンケートでも9割の保護者が「学校とのやりとりに悩んだことがある」と回答。孤立し疲れ果ててしまった保護者の姿も浮かび上がってきました。

一方で「改善例」のケースでは「みんなの知恵袋集」といえるような事例も多数届いています。

本書は、学校批判のために作り上げたものではありません。保護者を取り巻く現状を整理したうえで、学校と家庭が「子どもが伸び伸びと成長できる環境」という共通目的のために対話を進める一助になることを、心から願っています。

なお本書は、4月の新学期時期に皆様のお手元に届くよう、速報版として作成しております。上記アンケートの回答内容をより丁寧に分析・整理した詳細版も、後日公開予定です。

多様な学びプロジェクト

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」※条項抜粋

(学校以外の場における学習活動等を行う不登校児童生徒に対する支援)

第十三条 国及び地方公共団体は、不登校児童生徒が学校以外の場において行う多様で適切な学習活動の重要性に鑑み、個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ、当該不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう、当該不登校児童生徒及びその保護者（学校教育法第十六条に規定する保護者をいう。）に対する必要な情報の提供、助言その他の支援を行うために必要な措置を講ずるものとする。

※デジタル庁 e-GOV「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」

https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=428AC1000000105_20170214_000000000000000

もしよろしければ、右記 QR コードからこの報告事例集に関するご意見をお寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。



目次（設問内容）

- 1 [調査概要](#)
- 2 [回答者の属性](#)
 - (1) 都道府県
 - (2) 市町村
 - (3) 不登校・行きしぶりのある子どもの学年
 - (4) 回答者の年代(任意)
 - (5) 不登校行きしぶりのある子どもと回答者の関係
 - (6) 学校とのやりとりで困ったことの有無
- 3 [困ったことがある具体的な内容](#)
 - (1) 大人の間で解決する問題について
 - (2) 子どもの意向を踏まえて決める事柄について
 - (3) 先生の行動に関して
 - (4) 家庭から学校への要望を伝えるとき
- 4 [困ったことの具体的エピソードと改善策](#)
 - 4-1 [大人の間で解決する問題についてのやりとり](#)
 - (1) 出欠連絡について
 - (2) 学用品やプリントの受け取りについて
 - (3) 給食費・教材費・PTA 会費の支払いについて
 - (4) PTA の参加について
 - 4-2 [子どもの意向を踏まえて決める事柄についてのやりとり](#)
 - (5) 子どもの状況を同級生にどう説明するかについて
 - (6) 各種行事(卒業式・運動会など)への参加について
 - (7) 卒業アルバム・卒業文集について
 - (8) 宿題・テストについて
 - 4-3 [先生の行動に関するやりとり](#)
 - (9) 家庭訪問・安否確認について
 - (10) 登校を促す学校からの行動(登校刺激)について
 - (11) 学籍や進級の問題について
 - (12) オンライン授業に参加できない・タブレットが支給されない問題について
 - 4-4 [家庭から学校への要望を伝えるとき](#)
 - (13) 教師との意識のずれについて
 - (14) 子どもの特性や家庭の方針について
 - (15) 地域の親の会の情報を知りたい・他の保護者に伝えたい
 - (16) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー制度について
 - (17) フリースクール・ICT 教材利用の出席認定について
- 5 [その他の困りごと・上手くいった事例・上手くいかなかった事例](#)
(詳細版にて、まとめてお伝えします)
- 6 [他の保護者に伝えたい「我が家のコツ」](#)
(詳細版にて、まとめてお伝えします)

1 調査概要

(1) 調査目的（アンケート公開時の調査協力依頼文）

多様な学びプロジェクトでは、学校とのやりとりで傷つきエネルギーを消耗する保護者を1人でも減らしたいと考え、家庭の考えをスムーズに学校に伝えるための文書のひな型を作り、4月上旬の公開を目指しています。

アンケートの結果は、文書ひな型作成のほか、政策提言や団体のブログ・SNS等の広報でも利用させていただくことで、不登校家庭の現状への理解を広げていくことを目的としています。

(2) 調査方法

インターネットにおける回答

(3) 調査対象

全国の不登校・行きしぶりの子をもつ保護者

(4) 調査時期

令和4年3月1日～令和4年3月10日（10日間）

(5) 回収数

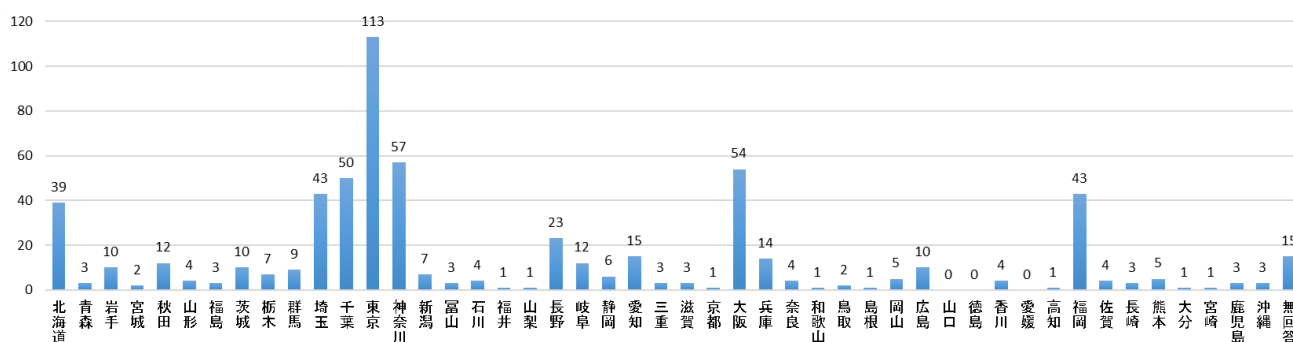
632件（有効回答数 615件）

2 回答者の属性

(1) 都道府県

Q1. お住まいの地域を教えてください（任意）

回答数は首都圏に集中しているが、インターネット上でアンケートを拡散した団体や個人の影響が出ている地域もあります。



(2) 市町村

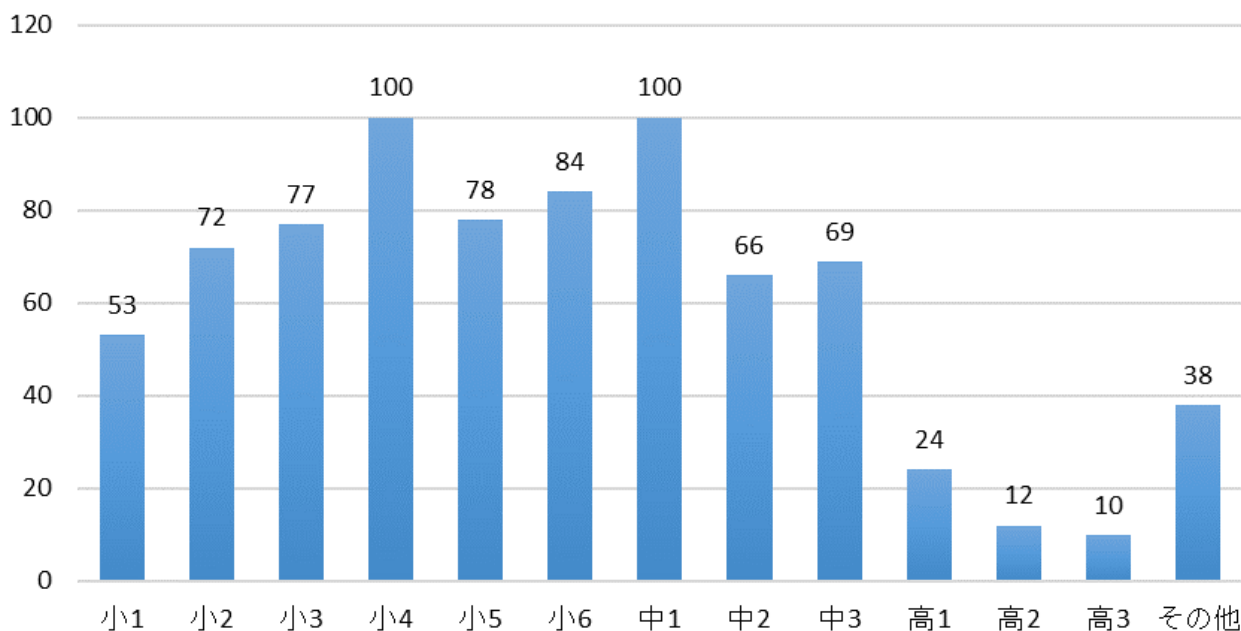
Q2. お住まいの市町村を教えてください（任意）

掲載は省略します。

(3) 不登校・行きしぶりのある子どもの学年

Q3. 現在同居されている不登校・行きしぶりのあるお子さんの学年を教えてください（必須、複数選択可）

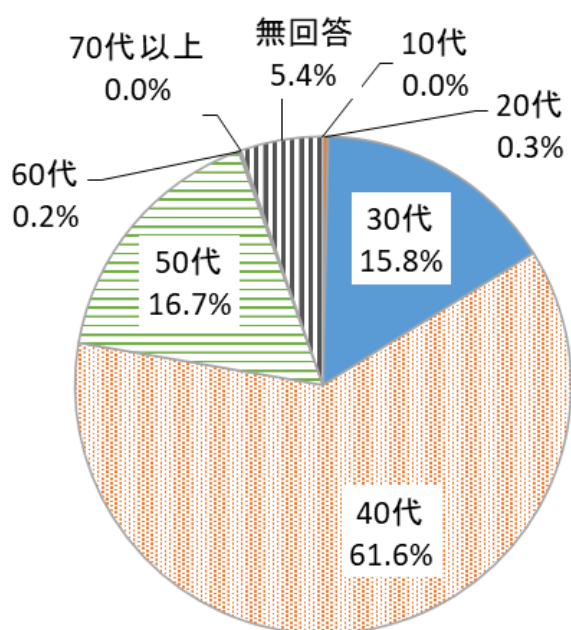
小学生・中学生の子どもをお持ちの保護者の回答が多いです。



(4) 回答者の年代(任意)

Q4. あなたのことを教えてください（任意）

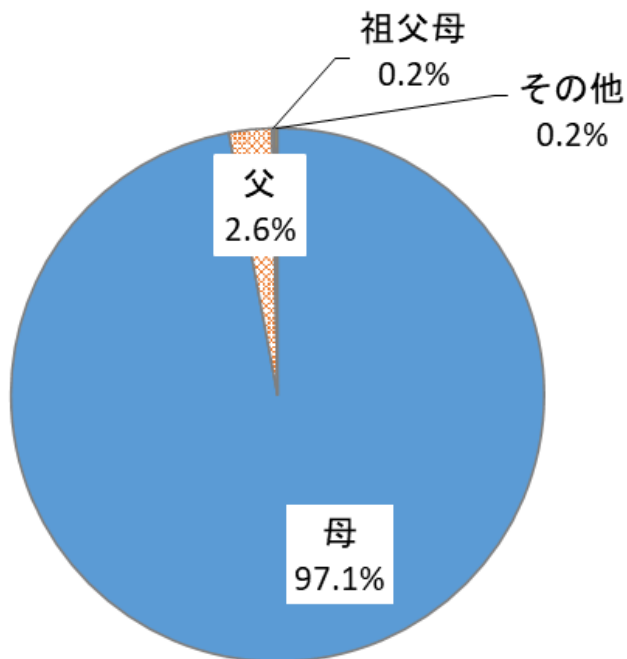
回答者の年代は40代が61.6%と半数以上を占めています。



5) 不登校/行きしぶりのある子どもと回答者の関係

Q5. お子さんとの関係を教えてください (必須)

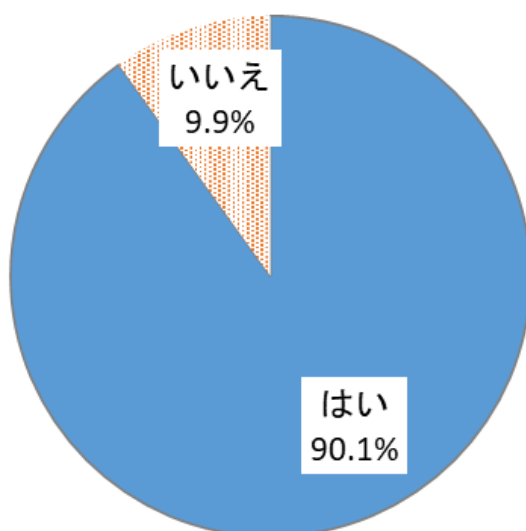
母が 97.1%と大部分を占めています。



(6) 学校とのやりとりで困ったことの有無

Q6. これまでに学校とのやりとりで困ったことがありますか? (必須)

回答者の 90.1%が学校とのやりとりで困ったと回答しています。



3 困ったことがある具体的な内容

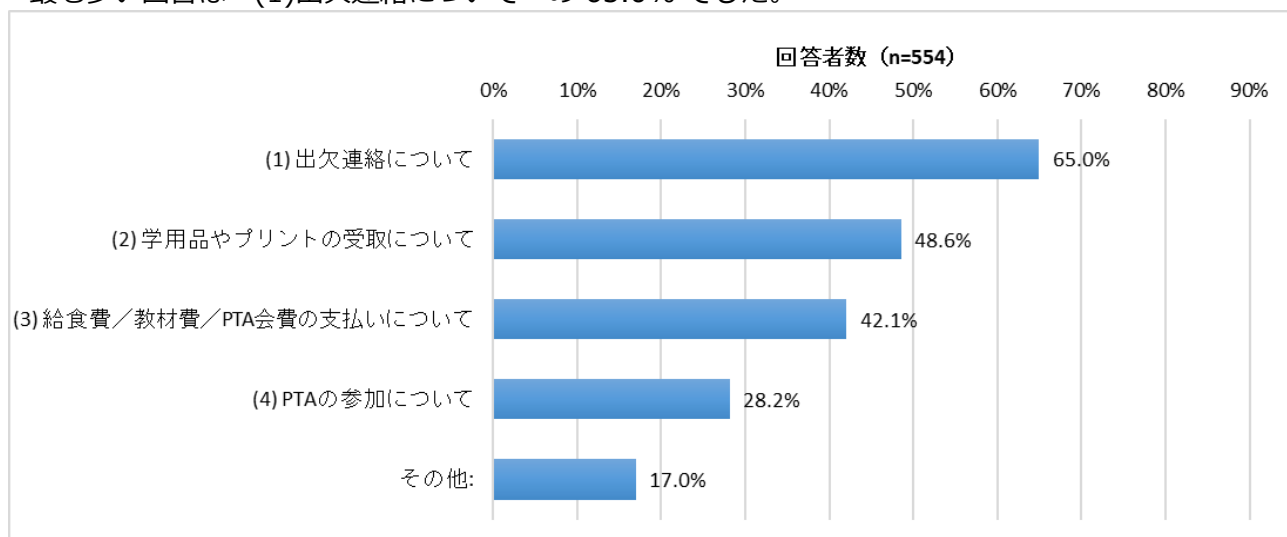
Q7. 困ったことがあるとお答えの方へ伺います。次の4つの項目ごとに、具体的な内容を教えて下さい。

1. 大人の間で解決する問題について
2. 子どもの意向を踏まえて決める事柄について
3. 先生の行動に関して
4. 家庭から学校への要望を伝えるとき

Q7への回答数は554件ありました。

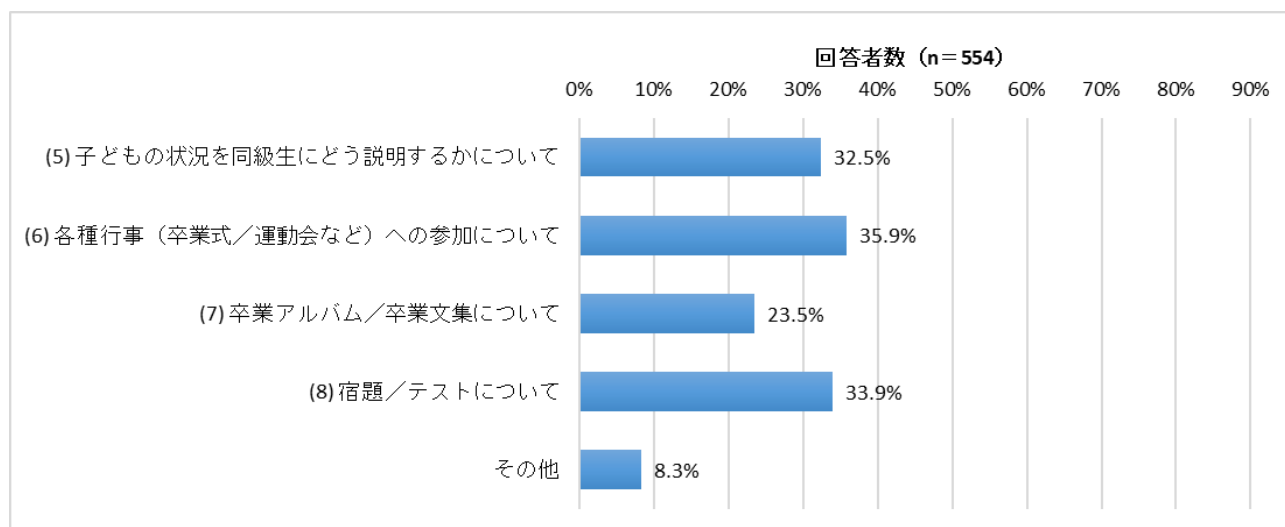
Q7-1. 大人の間で解決する問題についてのやりとりで、困ったことはありましたか？（複数選択可）

最も多い回答は (1)出欠連絡について の65.0%でした。



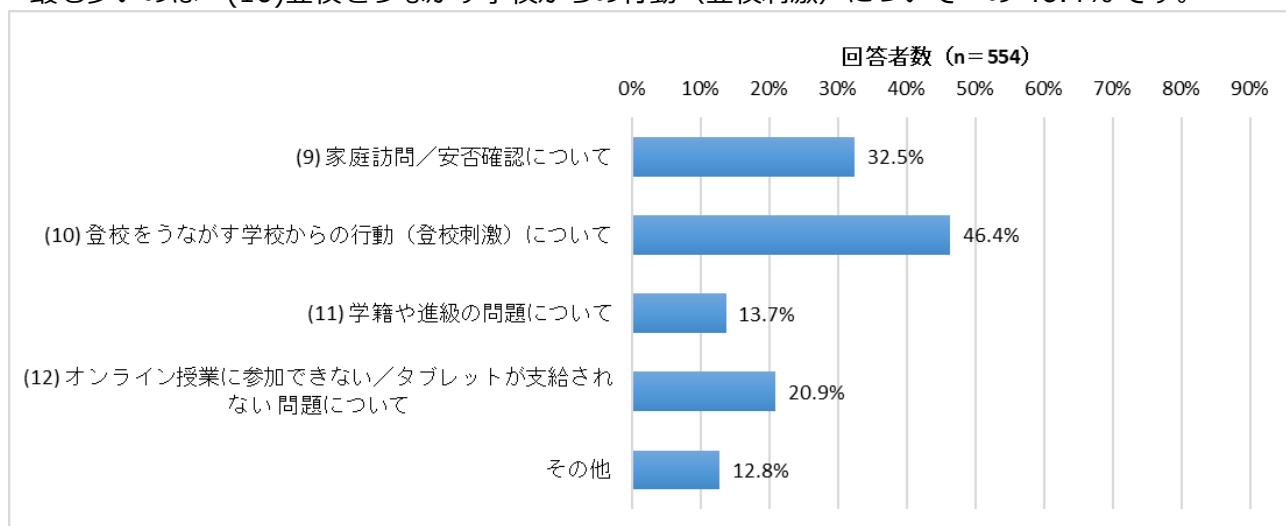
Q7-2. 子どもの意向を踏まえて決める事柄についてのやりとりで、困ったことはありましたか？（複数選択可）

(5) (6) (8) に回答した人の割合はともに32~36%の範囲に入っています。

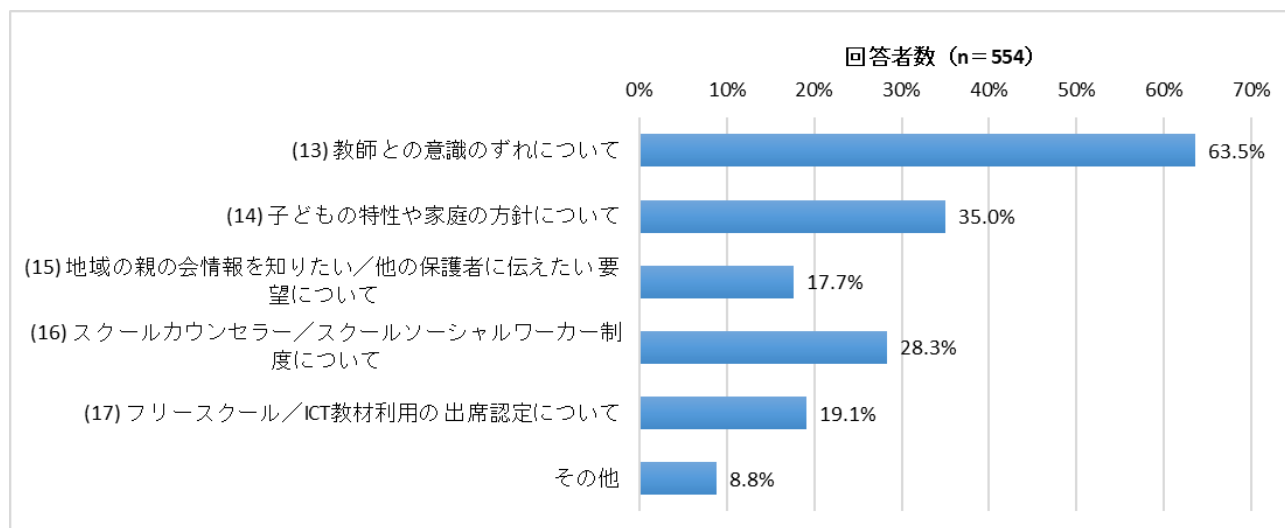


Q7-3. 先生の行動に関するやりとりで、困ったことはありましたか？（複数選択可）

最も多いのは (10)登校をうながす学校からの行動（登校刺激）について の46.4%です。

**Q7-4. 家庭から学校への要望を伝えるときに、困ったことはありましたか？（複数選択可）**

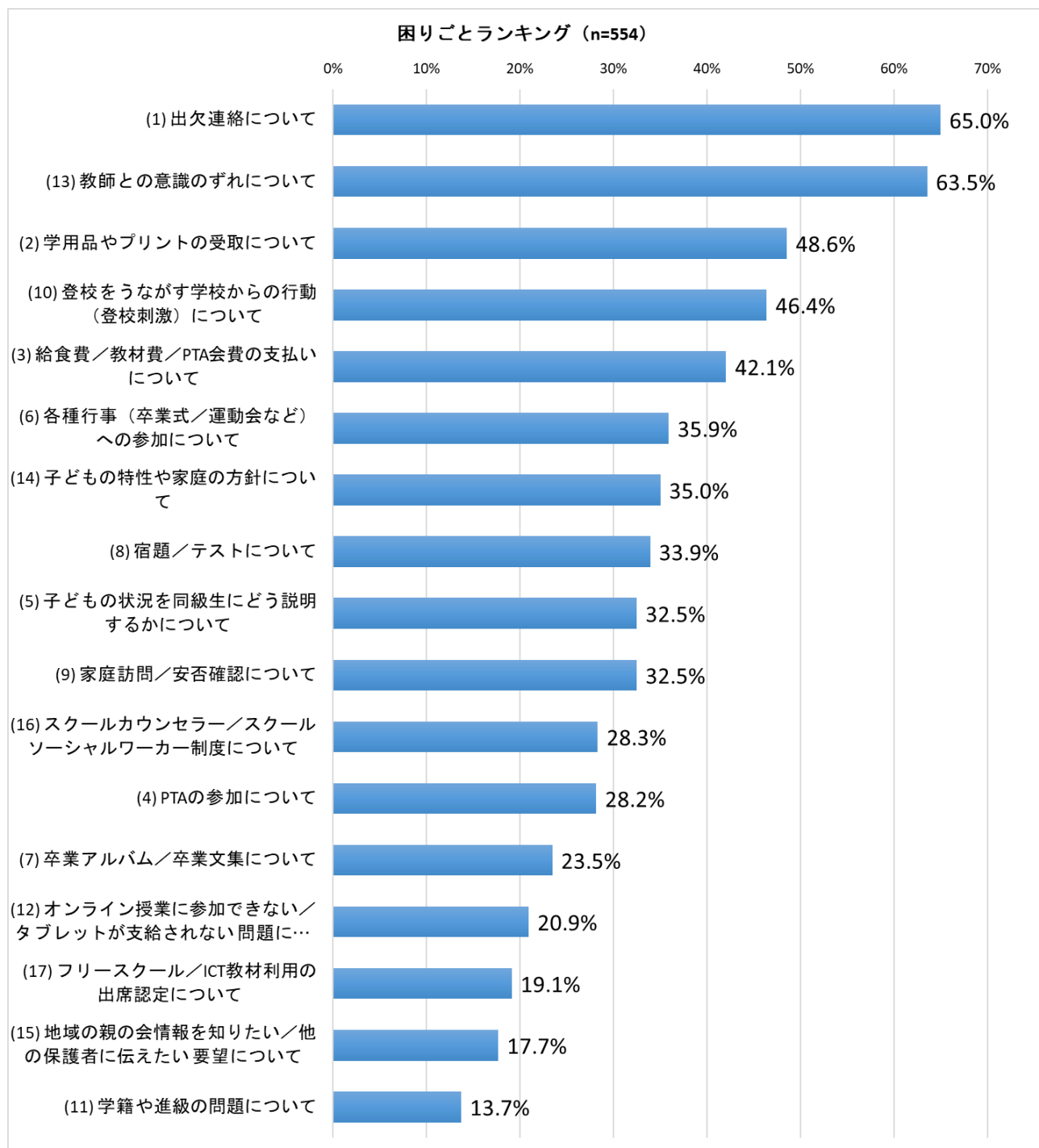
最も多いのは (13)教師との意識のずれについて の63.5%です。



困りごととランキング

Q7.で選択された困りごとのランキングは次のとおりです。

出欠連絡についてが 65.0%で第 1 位でした。



4 困ったこと of 具体的エピソードと改善策

- Q. ①困りごとで、具体的なエピソードがあったら教えてください。
②「こうしたら良くなった／悪くなった」というやり方があったら教えてください。（自由記述）

以下に主な回答を紹介しつゝ（表記は原文をそのまま、長いものは一部抜粋、個人情報ば伏せて掲載）。

4-1 大人の間で解決する問題についてのやりとり

(1) 出欠連絡について

①困りごと

- ・毎朝しなくてはならない出欠連絡が本当に精神的苦痛で、それをしないでいると今度は学校側から掛かってきて、その電話を取って答えなくてはならないというのが地獄で、それが原因で家族や物に当たるようになったりして、一体これで誰が幸せになってるのだろうと、常に疑問を持っていた。（40代 父）
- ・出欠連絡はとにかく辛かった。朝から落ち込む日々だった。娘は学校にいける状態ではなく、受け入れているつもりだったが、連絡の度に、辛くなる自分がいて、娘を受け入れていないのではと、自分が嫌になった。これでは、自分自身がもたないと思ひ、出席時の連絡にしたら、ずいぶん気持ち楽になった。（30代 小6の母）
- ・毎日の出欠の連絡が苦痛でした。途中からメールでやり取りできるようになり助かりましたが、一度、電話連絡がしんどいことを担任に話したとき、もう少し頑張ると言われて、2回目に話したとき辛くて泣いたらやっと辛いことが伝わりました。（40代 小6の母）

②改善事例

- ・毎朝の電話連絡をメールに変えてもらったら、本人が学校へ行かない罪悪感を感じにくくなった。（40代 小5の母）
- ・欠席理由を毎回聞かれて答えるのが大変だったし、変わらない子どもの様子を毎回説明するのが苦でした。登校する時だけ連絡するように変えてもらうことで精神的に楽になりました。（40代 中1の母）

(2) 学用品やプリントの受け取りについて

①困りごと

- ・毎週プリントや手紙を渡すと言われても、学校から精神的に離れることが出来なくてゆっくり休むことが難しかったです。（40代 中2の母）
- ・中学校で不登校になった時、こちらからお願いするまでプリント配布や連絡事項を教えずに貰えなかった。定期試験を他施設で受けるつもりで準備していたのに、試験日に変更になっていたことを知らされず、母子でショックを受けた。（40代 高1の母）

②改善事例

- ・去年はメールで学級通信等送ってもらえたので無理して学校に取りに行かなくても良いので楽でした。（30代 小5の母）
- ・子供と相談して、本当に必要な学用品のみ取りに行った。プリントもどうしても必要なものだけもらうようにした。電話も確認事項がある時のみ。（50代 小6の母）

(3) 給食費・教材費・PTA 会費の支払いについて

①困りごと

- ・完全不登校になり数ヶ月後、給食は止められますか？と担任に確認したところ、時間がかかるので…と流されてしまいました。さらに数ヶ月後に、こちらから給食変更の用紙を市のホームページからダウンロード印刷記入して持参したところ、4日後から止められます、と。最初から正確な情報を教えて欲しいです。(40代 小6, 中3の母)
- ・教材費なし、を毎回お願いしていたが、学年が変わるタイミングで担任も変わるため、引き継ぎがうまくいかずに、教材費を注文されたり、給食費を引き落としになった。教材費は止めることができたが、一括で購入しているため返金ができない、と言われ、こちらの落ち度ではないのに必要のないものを注文され、代金を払うのがとても嫌だった。(40代 小2、小6、中1の母)

②改善事例

- ・担任だけでなく、関係者全員に確認とお願いをすること、また、連絡帳やメモなどで書面にすること。担任+副校長+通級の先生+事務の方等、毎年年度終わりと年度初めにお願いすること。これをやるようになって、特に事務の方に丁寧に挨拶しておく、お金関係は問題ないことがわかってきた。(40代 小2、小6、中1の母)
- ・給食費の支払いを止める手続きを自分で調べ、ホームページに掲載されていた書式を学校に提出した。(40代 小5の母)

(4) PTAの参加について

①困りごと

- ・不登校になり、とても荒れて目が離せない子供がいる中で役員の仕事をするのは難しくなるかもしれないと、担任とPTA役員長に相談。担任はPTAには関われないと言い、役員長は自分で代役を見つけるまで辞めさせられないと言われ、子供対応でさえいっばいなのに、誰も助けてくれないんだと悲観的な考えしか浮かばなかった。(40代 小2の母)
- ・PTAの選考免除について、わざわざ手紙を書き学校に直接持って行かなければ行けなかった。またその手紙についても、わりと詳しく(不登校の原因など)書かないといけないので、心情的に抵抗があった。(30代 小3 母)
- ・精神的に苦しい毎日を送っているので、内心は『やりたくない。余裕がない。』のですが運悪く、くじ引きで委員長になってしまいました。そもそも、任意のボランティアなのに加入するかしないかの選択さえさせてもらえず、半強制的に重責を負わされるPTAの仕組みに疑問です。(40代 小3の母)

②改善事例

- ・学校に行っていないのでPTAの役員を引き受けられないので、やめたいと伝えたところ、役員免除するといわれたため、会費のみ支払い会員を続けることになった。(40代 小5の母)
- ・世間体を気にすることや学校に気を使うのを一切やめて「参加できません」「辛いです」「できません」「うちはこうします」とはっきり学校に伝えるようにしたら学校側にもこちらが困っていることが伝わり、先生方の対応が変わりました。(50代 中1の母)
- ・教育委員会、児童相談所へ相談し、間に入ってもらうことでスムーズに話が進んだ。(40代 小1の母)

4-2 子どもの意向を踏まえて決める事柄についてのやりとり

(5) 子どもの状況を同級生にどう説明するかについて

①困りごと

- ・子どもたちは自分自身で学校に行かない選択をしたのですが、先生たちは他の生徒にはそのようには説明できないとおっしゃりました。結局、実態とは違う説明(今はしんどいからじっくり休むが良くなったら学校に帰ってくる、という主旨)がなされたようです。そのせいで、親切なお友達が時々「早く学校にきてね」というふうなお手紙をくれるのですが、もらった本人たちは複雑な気持ちでいるようです。(40代 小2、小4の母)
- ・息子が自分で、学校に行かない理由について『転校前の学校でいじめがあり、それが理由で人と接するのが怖いので』と手紙で担任に伝えたのですが、それを校内の子どもが知っていました。学校に来ていない理由として校内の子や保護者に手紙の内容を話していかなど聞かれたことはなかったので、驚きました。(40代 中1の母)

②改善事例

- ・懇談の時に先生に話すと、どの学年の時も毎回先生方もどうクラスの子どもたちに話してよいのか、迷っている様子でした。こちら側がどう伝えてほしいのかをはっきりと伝えた方が、先生側から喜ばれました。行った時に、お友達がわーって大勢で寄って来てくれるのは、嬉しいけれど本人の負担になってるということも伝えたら、「嬉しいけれどしんどい気持ちにもなってしまうから、〇〇ちゃんが来た時はびっくりさせないように、いっぱい寄って行くのはやめておこうね、1人とか2人とかで話しかけにいこうね」というふうに伝えますね、と先生が言ってくれて、クラスのお友達に伝えてくれたりしていました。(30代 小3の母)

(6) 各種行事(卒業式・運動会など)への参加について

①困りごと

- ・学校や親が参加や登校を促すと、本人はその場では期待に応えようと「行く」と言ってしまう、当日になって「やっぱり行けない、ごめんなさい」という事が続きました。その都度調整や連絡をするのが負担でした。(50代 中1の母)
- ・林間学校に参加したいという娘に「だったら体調を整えて毎日登校して林間学校の係もきちんとやろうね」と言われた。「それで毎日登校した末に具合が悪くなり参加できない事もあり得るのですが、何か当日だけでも出来る係を考えていただけませんか？」と提案。何度も話し合い(立ち話で)ほぼ要求通りに対応していただけた。(40代 小5の母)

②改善事例

- ・卒業式参加有無については早い時期からこちらの要望を伝えていたので子どもの希望通りにできた。卒業証書は私(母)が校長室で受け取ってきた。色々なことがらの要望を伝えることをしてきたので学校側も家庭の要望を受け入れる準備ができていたと感じた。(50代 中1の母)
- ・子どもには、自身の気持ちを尊重する事を伝え続け、学校側の意図は“良かれ”である事を子どもに伝えていた。(断りたい事は断っていい) (40代 小6の母)

(7) 卒業アルバム・卒業文集について

①困りごと

- ・「〇〇さんが卒業アルバムを購入しなければ、6年生のすべての家庭の卒業アルバムの値段が500円ほど上がってしまいます。購入してほしいのですが」と先生に言われた。が、なんのために購入するかわからなかったので購入しなかった。(が、同級生のお母さん方には、またあの家庭か…的に思われたと思います) (40代 小4、中1の母)
- ・書くことに困難があったので、卒業文集はしんどかったです。「書ける範囲で良い」言われたので息子が口で言ったことを私が一度文章に起こし、息子が清書して提出したら、『先生の文章』に半分以上修正され、再度清書しなければならなくなった。(40代 中1の母)
- ・PCでの打ち込みでも許して欲しい。文字が無理ならイラストでも良いと思うのです。その時のその子の言葉、表現であることが大事だと思うので。(40代 中1の母)

②改善事例

- ・学校での嫌なことを思い出させることはさせられないと文書にして断ったら、あまり言わなくなった。(40代 小6の母)
- ・アルバムについて、こちらの気持ちをしっかり伝えたらわかってもらえた。遠慮せず、対等に気持ちのやりとりをすることが大切とおもった。(40代 中1の母)

(8) 宿題・テストについて

①困りごと

- ・行き渋りの当初は学校は宿題の提出を通して、つながろうとしてくるが、学校に行くのがつらくて休んでいる子に、宿題をさせるということ自体が、プレッシャーだし、ダメだという烙印を押されているように感じるのではないかと思う。テストだけは学校に受けに来られるか、という連絡を受けたこともあったが、それに何の意味があるのかと思った。(30代 小1、小6の母)
- ・テストは学校で受けなければならず、家庭で行ったものは、評価の対象にしてもらえない。学校に行く事が前提になっていることが多すぎる。行かなくてもできることはないのか。(40代 小5の母)

②改善事例

- ・不登校新聞や不登校を経験した人が書いている本を担任の先生に渡して、当事者の気持ちに配慮を求め、また不登校の児童の家に会いにいった時、頑張っただけで玄関先に出て来た子供に同じことをするのかと問いかけその状況を想像してもらったことで、その後学校に行った際にそういう事はなくなった。(40代 小5の母)
- ・担任のアイデアで、一週間分の時間割を印刷して金曜または月曜に配る、そこに宿題も全部書いてある。という方式に変わりました。いっきに忘れ物が減り、宿題のやり忘れ、ミスも無くなりました。(小5の母)

4-3 先生の行動に関するやりとり

(9) 家庭訪問・安否確認について

①困りごと

- ・教育委員の人が家まで来るや「児童相談所の人が家まで来ることになるのでお母さんもそうになったら困るでしょ」などと言われて精神的に壊れてしまって自宅にいるのが恐怖になってしまいました。学校からの電話の音にも恐怖を感じてしまい、電話の音を聞いただけでビクビクしてしまいます。(40代 小1、小3の母)
- ・とにかく放置でした。生存確認電話はひどくて2ヶ月とかなく、不登校=いらぬ存在なんだなと感じました。(30代 小2、小5の母)

②改善事例

- ・教育委員会と児童相談所に相談し、間に入ってもらうことで学校からの安否確認はなくなった。(40代 小1の母)
- ・自治体のホームページに不登校対応のマニュアルが掲載されており、そこに「二日連続で休んだら電話連絡、三日連続で休んだら家庭訪問」という方針が明記されていました。そのため、電話連絡があっても「マニュアルどうりね～」と相手の出方がわかるので気持ちに余裕がありました。(40代 小5の母)

(10) 登校を促す学校からの行動(登校刺激)について

①困りごと

- ・学校へ行けるかどうか会って判断すると言いながら、会ったらすぐ登校させられた。登校刺激を散々して、フォローするからと言われ頑張っていたら、全くせずに信頼できなくなった。「行けばそれで解決」と思っていることが勉強不足だと今になって腹が立った。(40代 中1の母)
- ・本人が「帰りたい(もう無理)」と言ったら家に帰して下さい。とお願いしていたのに、担任以外は約束を守らず帰らせてくれなかった。学校が怖い場所になり、通信制に進学したものの学校への恐怖感が残っている。(40代 高1の母)
- ・物理的に学校の中に入れば良いという考え方で、何故子どもが学校に行けなくなったのかの認識が何度話しても低く、先生方の威圧的な態度が怖くて行けないのに、その環境作りに取り組む事なく、子どもにプレッシャーをかけて(個人面談は学校の中でしなければならぬとか)登校させるやり方にいつも納得いきませんでした。(40代 中1の母)

②改善事例

- ・夏休み明けに登校再開を目指して、とか、新年度から学校復帰に向けて、など節目に言われたことはありますが「今のところ、そういうことは考えていませんが、まだ先のこととはわからないので、その時になって子どもの気持ちを第一に決めましょう」と伝えた。子どもに登校刺激される前に、のらりくらりと親が先延ばししてよかった。(40代 小5の母)
- ・支援級で、先生と二人だけの時間をとってもらった。挨拶だけ来ても、先生は会えて嬉しいよと言って、急かすことなくずっと待っていてくれた。現在、学校ではプログラミングを先生と一緒にしているが勉強の強要をされないのが学校は大丈夫な所と認識できている。(40代 小2の母)

(11) 学籍や進級の問題について

①困りごと

- ・前学年の学年末に次年度のクラスに参考にするため、トラブルがあった苦手な子どもの名前を何名か伝えたが、その子どもたちと同じクラスにされた。(30代 中2の母)
- ・学年末に進級に関する校長面談があった。同席すると「お母さんが死んだらあなたはどのようにしていると思いますか？」など、ひどい質問ばかりだった。(40代 小5、中2の母)

②改善事例

- ・申し出て、年度末に、父母と児童支援専任とスクールカウンセラーで、新年度に向けての面談をしていました。学校として可能な限り、応えてくれてはいました。(50代 中2母)
- ・次年度から進級の意思だけ伝え、面談は断った。(40代 小5、中2の母)

(12) オンライン授業に参加できない・タブレットが支給されない問題について

①困りごと

- ・登校できなくなった後に、オンライン授業を取り入れてくれると担任より話があり、期待していたが、2か月待ち、始まった頃には子どもはもう授業を見る気持ちにはならなかった。コロナもあり、もっとスムーズにオンライン授業に移行できていればと思った。担任1人の負担ではなく、学校全体で取り組んでくれていればと強く思う。(40代 小4の母)
- ・不登校初期に、課題の提出や時間割の確認などをタブレットでさせてもらえないかと聞いてみたが、対応してくれず学校と本人が離れてしまった。学校として、安易にオンラインでつながると、登校に繋がらないという思惑があったようだ。コロナでタブレット学習選択制になったが、一度も参加しなかった。(50代 小6の母)

②改善事例

- ・自校の実施状況を教頭に確認し、市教育委員会や県の教育センターなどに相談し、我が家でどのような目的で活用したいと考えているのかを説明してタブレットを借りること、オンラインで授業視聴が可能になりました。(小6、中2の母)
- ・学校のタブレットを持ち帰らせてくれて、自宅からいつでも授業に入れる様に繋いでくれている。授業だけでなく、休み時間も友達と話をしたり、交流ができています。(30代 小3の母)

4-4 家庭から学校への要望を伝えるとき

(13) 教師との意識のずれについて

①困りごと

- ・小学生の頃、『死にたい』と言いはじめたので、危機感を持って、学校に話しに行ったのに、話が噛み合わなさすぎてびっくり。
帰宅後、欠席中のお便りや提出物など確認したら、図工の授業でこどもが制作したパラパラ漫画がでてきて、オチがなんとこども本人の葬式。まったく見ないで返したのか、そのことに触れてこなかった担任の教師にがっかりしました。(50代 高2の母)
- ・いじめについて校長に相談していたが、教育委員会には報告されておらず、無かったことにされていた。議会での教育長の答弁でそのことを知った。いじめアンケートについても、我が家にはなんの連絡もなく、アンケートが実施されていた事実も知らなかった。いじめ対応の不手際について、講義文書にして校長に渡したが、校長のところまで止まっており、担任も知らされていなかった。ひとり親で頑張ってきたが、ついにつつ状態になってしまった。(50代 母)
- ・欠席した授業のノートをクラスの子がうちの子のためにコピーするという話ができました。その日の担当を決めて自分のノートをコピーしてうちの子に渡す。とういのですが、まずうちの子にとっては、必要ないことでした。そして、クラスの子が自主的にするのではなく、先生から言われするのは、クラスの子ども達も負担になる子や不満に思う子もいます。そうすると、うちの子が学校に行ったときに、クラスとの関係が悪くなると話したのですが、こちらの気持ちを置いてきぼりにして話がすすむということがありました。(40代 中3の母)

②改善事例

- ・子どもたちの学校外での活動を明るく伝えるようにしていたら、最近あまりネガティブなことは言われなくなった。(40代 小2、小4、小6の母)
- ・早い段階で(休み始めて数か月)夫と私、校長、児童担当、担任で面談をした。話が通じないことを夫も痛感したらしい。夫婦で「学校の理解のなさ」を共有できたのがよかった。(40代 小5の母)
- ・管理職の先生方からの指示は早く先生方に浸透するので、気さくに話しかける。批判や要望より、まずは、子どもの状況の理解を色々な先生方にしてもらい、子どもが学校内での人的居場所作りをした。その結果、子どもの興味のあるものや趣味まで、全ての先生方が知り、みんなで子どもに話しかけたり、品物を学校内に置かせてもらったりと多くの先生方が理解し支えてくれた。(中3の母)

(14) 子どもの特性や家庭の方針について

①困りごと

- ・毎年年度初めに面談で本人の得意・不得意や家庭での対応を書面で渡していますが、30人以上の生徒に一人の担任では対応できないことが多く、発達障害特性について知識のある先生も少ないため、なかなか学校内で安心して過ごすことが出来ずにいます。(40代 小4の母)
- ・小学校1年生から少しずつ集団生活にズレが生じる、2年生のときにはADHDのグレーゾーンで書きと計算に困難があると診断され、支援をして欲しいとお願いしましたが「友人関係が良好なので支援は要らない」と担任から言われました。徐々に登校渋りが増えたので、早退や遅刻なども願い出ましたが「もう少し頑張りなさい」「やればできるでしょ」と言いくるめられ、その後支援の専門の先生に行動観察してもらい認定してもらえるまで一年かかりました。支援級に入れてもらい、たまに欠席遅刻早退しながらも学校生活を頑張っていました。懐いていた支援級の先生が新年度になったら代わっていた。挨拶や心の準備もないまま担当が代わるシステムに対して疑問を持ちます。(40代 中1の母)

②改善事例

- ・学校の先生に理解してもらうために、発達性読み書き障害の説明書を作って学校に配布してもらったら、フリガナ付きのテストを作ってくれるようになった。
(40代 小6、中2の母)
- ・主治医から手紙を書いてもらったり、発達検査の結果に説明を付け足したり、具体的なエピソードを伝えたりして説明が伝わりやすくなった。家庭の方針は年度はじめには必ず伝えるようにし、まめに意思を伝えるようにした。
(小6、中2の母)

(15) 地域の親の会の情報を知りたい・他の保護者に伝えたい ※注1

①困りごと

- ・スクールカウンセラーの先生も学校の先生も親の会などについての情報は一切お持ちでなかったもので、はじめのころは親の私がかかなり右往左往しました。不登校初期にもしくは行き渋りの時期に親の会に参加することができれば親が気持ちが落ち着いて、こどもにも冷静に対応することができると思うので、学校でも民間事業も含め情報を教えてくれるようになるといいなと思っています。
(小3、小6の母)
- ・不登校の親との交流がしくて、スクールカウンセラーに相談したが、PTAに提案してくださいとのことでした。不登校で落ち込んで孤立感の中に居るのにそこまでやるパワーが無くてできないって思ってしまう、余計に孤立感を抱きました。
(40代 小5、小6、高3の母)

②改善事例

- ・学校の先生が、知り合いの親の会につなげてくださり、そこから親のつながりが増えていったので、とてもありがたかったです。
(40代 中1の母)
- ・学校ではらちがあかないので、親の有志で、これから不登校になるかもしれない=全ての小学生の保護者に向けて、学校に行きづらい時、学校に対してどのように働きかけるか、どこに相談したらいいか、などをまとめたプリントを作ることにしたら、教育長が興味を持ってくれて、今作成中です。
(50代 小6、高1の母)

(16) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー制度について

①困りごと

- ・こちらから言ってやっと利用ができた。配置人数が少なく、あまり機能していないと感じた。
(40代 小1、中3の母)
- ・行き渋りの時期にスクールカウンセラーに相談したところ、「学校へ行くことが子どもにとって一番」だと伝えるように言われた。その回答に驚き、疑問に思いながらも、専門家の言うことだということや周りに「不登校を肯定してくれる味方」がいなかったため「私が間違っていたのかもしれない」と思い、それを実行してしまった。その結果、子どもの体に不調が出てしまい、自分の判断をととても後悔している。
(30代 小3の母)

②改善事例

- ・学校に行くのが無理で子どもがスクールカウンセラーと話す機会がなかったのですが、家に来てくれることになって一緒にゲームをしたりしているうちに信頼関係ができてきました。
(40代 小5の母)
- ・スクールソーシャルワーカーと繋いでもらい、放課後デイをフリースクールとして使えるところもあるなどを教えてもらえると気が楽になった。
(30代 小2の母)

(17) フリースクール・ICT 教材利用の出席認定について

①困りごと

- ・ ICT を利用した出席が可能とネットで調べると書いてあるが、実際は学校の校長先生が認めてくれなければ、一発で断られてしまう。相談先もなく、誰にどう交渉したら良いのかもわからず、本当に困っている。どうして可能な学校と、可能ではない学校があるのか、制度としてちゃんと認めて欲しい。
(40代 小5の母)
- ・ 学校というか教育委員会ですが、不登校なりたてのときに教育委員会にフリースクールなどの紹介はしてもらえないか聞いたが把握していないので自分で探すよう言われ、学校に通えない子は管轄外と言われた気持ちになった。今もどこからの支援もない状態です。
(40代 小2の母)
- ・ 不登校児の小学校低学年の居場所は現状ないと区の教育センターから説明あり。お友達とは会話したい、遊びたいため、社会性を育むためにもフリースクールに通わせています。費用が月8万かかっています。
(40代 小1の母)

②改善事例

- ・ 文科省の資料には出席扱いとなりますとかいてありますと話をしたところ、出席扱いになりました。
(40代 小4の母)
- ・ 教育機会確保法が出たばかりで、先生方も出席認定をよく知らなかったようで、市議の方に相談させていただき、どんな内容なら出席になるのかなどを教えてもらってそれをまとめて書類にして学校側に提出した。
(40代 小3、中2の母)
- ・ フリースクールと県教育委員会が繋がることができ、出席扱いになるよう動き始めた。
(中2の母)

5 その他の困りごと・上手くいった事例・上手くいかなかった事例

Q. その他、上記以外の困りごとや、それについて「こうしたら良くなった/悪くなった」というやり方があったら教えてください(任意)

(詳細版にて、まとめてお伝えします)

6 他の保護者に伝えたい「我が家のコツ」

Q. 最後に、学校とのやりとりで困っているご家庭に伝えたい、「我が家が掴んだコツ」などがもしあれば教えてください(任意)

(詳細版にて、まとめてお伝えします)

※注1 「多様な学びプロジェクト」では学校外で育つ子ども達が気軽に立ち寄れる地域の居場所や不登校親の会などの情報を掲載する「街のとまり木ポータルサイト」を運営しています。<https://tomarigi.online/>

こちらも合わせてご活用ください。

別添資料：学校への依頼文フォーマット

https://docs.google.com/document/d/1sjuzK0oUk1QwVGIzC57Hsb-UyyDFZpivodsgxVzp_qE/edit?usp=sharing

もしよろしければ、右記 QR コードからこの報告事例集に関するご意見を お寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。

